

人類と地球にとって持続可能な開発目標の指針を発表 —2015 年以降の開発目標設定のあり方を Nature に発表—

【要 点】

- 国際科学会議（ICSU）を中心とする研究グループが、ミレニアム開発目標（MDGs）後の持続可能な開発目標(SDGs)について発表
- 持続可能な開発の概念はこれまでの経済、社会、環境の三つの柱ではなく、環境を人間開発にとって必要不可欠な前提条件ととらえ、その上で初めて社会と経済の持続可能性が成り立つという新パラダイムを提唱。
- 暫定的に 6 つの SDGs を提案

【概 要】

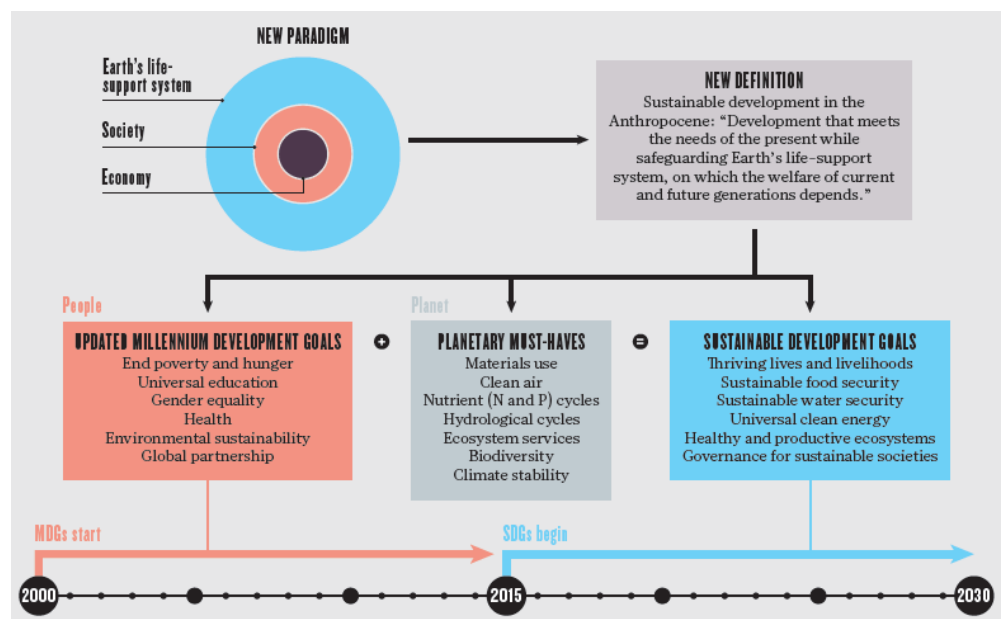
東京工業大学大学院社会理工学研究科の蟹江憲史准教授ら 11 人の研究グループは、ミレニアム開発目標（MDGs）に続く 2015 年以降の開発アジェンダを構成する持続可能な開発目標（SDGs）のあり方について、3 月 21 日発行の学術雑誌「ネイチャー」誌上で発表した。人類と地球の両方にとって望ましい開発目標を設定するのは非常に困難なことである。しかし、今回発表された 6 つの目標提案は、このような目標設定が可能であることを示すもので、国連で議論が開始されたばかりの SDGs のあり方を決定する方向性に大きな影響を与えるものである。

(原文 URL <http://www.nature.com/nature/journal/v495/n7441/full/495305a.html>)

●SDGs を導く方程式：SDGs = MDGs + 持続可能な地球システム (図 1)

【図 1】

SDGs の考え方



SDGs の導き方を示したのが図 1 である。これを解き明かすと、以下のようになる。

New paradigm

すでにいくつかの領域で限界を超えている地球環境破壊の現状が人間開発の状況の悪化を招いていることを勘案すると、新しいパラダイムは、持続可能な開発を経済、社会、環境の 3 つの柱で考えるのではなく、それらを重層構造として統合的にとらえ、地球環境がその基本的な必要条件と考える必要がある（図 2）。



図 2. 持続可能な開発の新たなパラダイム

New definition

人類紀における持続可能な開発の新しい定義は「今日及び将来世代の人類の繁栄を支える地球システムを保ちながら、今日の世代のニーズをみたすような開発」とし、社会や経済を支える前提条件としての地球システムの存在を明示的に認識するものへと発展する必要がある。

Updated Millennium development goals (MDG)

貧困と飢餓の撲滅、初等教育の普及、男女平等、健康、環境の持続可能性、世界規模のパートナーシップ等の MDGs の目標は 2015 年以降の開発目標のベースとなる

Planetary must-haves (地球の持続性に必要な要素)

地球の危機が人間開発を阻害している現状を考えると、地球を健全な状態に保つためには少なくとも次の 7 つの分野の健全性が保たれている必要がある。すなわち、持続可能な資源、清浄な空気、栄養素のサイクル、水のサイクル、生態系の修復、生物多様性、気候の安定である。

Sustainable development goals

上記の 2 つの目標を組み合わせた結果として導かれるのが 6 つの SDGs である。これら 6 つの SDGs により、MDGs が対象としている課題と地球の持続性に必要な要素がカバーされることになる。6 つの SDGs とは、生命及び生活の豊かさ、持続的な食料の確保、持続的な水資源の確保、クリーンなエネルギーの普及、健全で生産的な生態系、そしてこれらを可能にする条件としての、持続可能な社会のためのガバナンスである。（図 3）

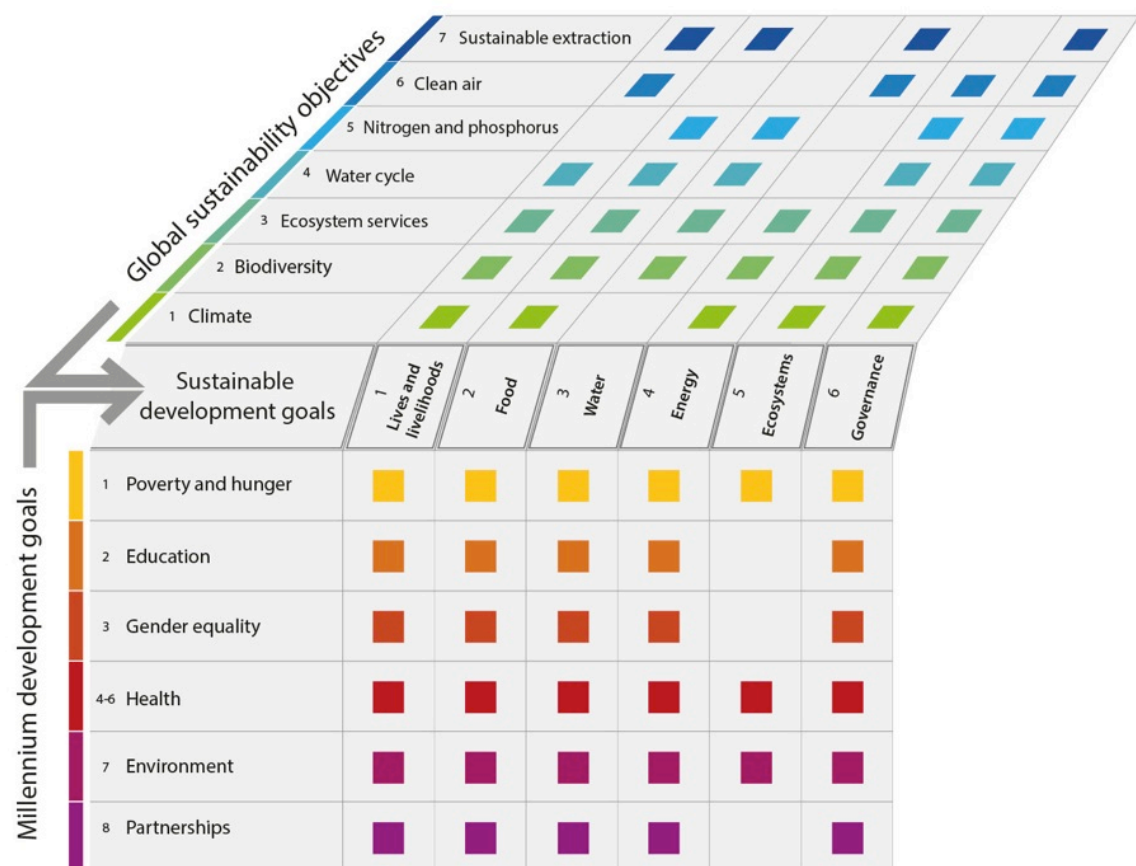


図3. MDGs と地球の持続性双方を対象とする持続可能な開発目標（SDGs）

●導かれた6つのSDGsの具体的仮目標

- ① 生命や生活の豊かさ
貧困をなくし、教育、雇用と情報へのアクセスを改善、健康状態や居住状況の改善、不平等の改善により福祉を向上する一方で、持続可能な消費や生産活動の実現を目指す。
- ② 持続可能な食糧の確保
飢餓をなくし、持続可能な生産、配分、消費システムを通じ、栄養源の確保を含む長期的な食料確保を達成する。
- ③ 持続的な水資源の確保
水資源の統合管理により効率的に配分することで、きれいな水や基本的な衛生状態を誰もが手にできるようにする。
- ④ クリーンなエネルギーの普及
全世界でクリーンエネルギーを安価で身近なものとする事で、環境汚染や健康被害を最小限に抑えると同時に気候変動を緩和する。
- ⑤ 健全で生産的な生態系
適正な管理、評価、測定、保全、修復により生物多様性と生態系を維持する。
- ⑥ 持続可能な社会のためのガバナンス
上記5つの持続可能な開発目標（SDGs）を実現するため、あらゆるレベルにおいてガバナンスと制度を変革する。

●日本における SDGs の研究について

25 年度から 27 年度にかけて、環境省環境研究総合推進費戦略研究プロジェクト（S-11）「持続可能な開発目標とガバナンスに関する総合的研究－地球の限られた資源と環境容量に基づくポスト 2015 年開発・成長目標の制定と実現へ向けて－」が開始され、蟹江准教授がプロジェクトリーダーに任命されている。本研究は新規研究プロジェクトに方向性を与えるものとして期待される。

●国際科学会議（International Council for Science=ICUS）

各国科学アカデミーが加盟する国際学術機関。日本からは日本学術会議が参加。特に自然科学分野における国際学術団体の協調促進および国際的科学活動の協調推進を図ることを主たる目的とする。1931 年設立。1998 年に以前の International Council of Scientific Unions（国際学術連合会議）から名称を変更したが、略称は従来の ICSU がそのまま使われている。本部はパリ。財源はメンバーからの会費と、国連からの助成金によってまかなわれている。

●ミレニアム開発目標（MDSs）

新しいミレニアム（千年紀）の始まりを目前にした 2000 年 9 月、147 の国家元首を含む 189 の加盟国代表の出席の下、国連ミレニアム・サミットがニューヨークで開催され、21 世紀の国際社会の目標として国連ミレニアム宣言が採択された。この国連ミレニアム宣言と 1990 年代に開催された主要な国際会議やサミットで採択された国際開発目標を統合し、一つの共通の枠組みとしてまとめたものが以下の 8 つの目標からなるミレニアム開発目標（MDGs）である。

- ① 極度の貧困と飢餓の撲滅
- ② 初等教育の完全普及の達成
- ③ ジェンダー平等推進と女性の地位向上
- ④ 乳幼児死亡率の削減
- ⑤ 妊産婦の健康の改善
- ⑥ HIV／エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止
- ⑦ 環境の持続可能性確保
- ⑧ 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進

●持続可能な開発目標（SDGs）

2012 年 6 月 20 日から 22 日までブラジルのリオデジャネイロで開催された国連持続可能な開発会議（リオ+20）には 188 か国から 97 人の首脳及び多数の閣僚級が参加したほか、各国政府関係者、国会議員、地方自治体、国際機関、企業及び市民ら約 3 万人が参加した。成果文書「我々の求める未来」の主な内容の一つとして「持続可能な開発目標（SDGs）について政府間交渉のプロセスの立ち上げ」がある。

【本件に関する問い合わせ先】

東京工業大学大学院社会理工学研究科 価値システム専攻准教授 蟹江憲史

Email: kanie@valdes.titech.ac.jp

TEL: 03-5734-2189 FAX: 03-5734-2189